

「デベ」を優先！千代田区再開発の背景

昨年9月、千代田区役所内に衝撃が走った。「公共施設建設に伴う入札に絡み、参加業者名が漏れている。入札妨害の存在」が捜査関係者に情報提供されたことが分かったためだ。提供者は千代田区元契約課職員有志を名乗り、「区内の各種再開発にも関与」「区幹部職員とも連携」など驚くべき文言が添えられていた。

外神田1丁目南部地区まちづくり事業化の可否をチェックする千代田区議会環境・まちづくり特別委員会

再開発計画は170mビルをメインに葬儀場とホテル一体の再開発ビルや神田川の岸辺の散策を盛り込む体裁だが、アキバラしいにぎわいが入り込む余地は窺えない。加えて地権者の再開発への同意率は6割台の低率。再開発事業に参加させる清掃事務所の扱いで業務水準の維持の保証は未解決。葬祭施設・万世会館の使い勝手の改善は手付かず。区道廃止の影響確認も未消化。増える交通量、風害、日照問題など近隣学童・高齢者にとって安全で安心は重大事だが、行政・準備組合の説明はゼロ。地権者や地域住民、議会野党が計画の再考を求めたが千代田区は開発

事業化を最優先した。3月13日に開かれる都市計画審議会に報告され、容れられれば4月中旬に計画の縦覧手続きを経て都市計画決定へ向かう。

千代田区のベテラン職員が、再開発問題について面白い話をしてくれた。「街づくりに関して、町会幹部とだけ意見集約して事業化を進めている」という。千代田区には107の町会があり、地域ごとに町会費を集めて運営されている。昨今は、マンション開発が進み、以前は少なかった新住民が増加している。彼らは町会への帰属意識が希薄なため、町会費納付に非協力的。役員のみ手が少なく、町会費納入にも消極的。

勢い町会財政を支えるのは、千代田区からの補助金。町会が抱える世帯数に応じて給付される。区の援助で町会運営が行えるため、町会幹部は区の意向に従順になりがち！

地域住民の要望を千代田区は神田警察通り沿道整備事業で、並木のイチョウを伐採すると決めた理由として町会と協議を重ねてきた。町会の婦人を含めた会員との話し合いや協議は行っていない。町会幹部が区に付度したか、イチョウ伐採策を支持しているところが、地域の婦人を中心に激しい反対が巻き起こる。区長は、行政の決定を承認。担当職員は強引に事業を遂行した。

2月6日未明、千代田区は2度目のイチョウ伐採を強行。直後から地域の女性たちがイチョウに寄り添い千代田区の暴挙を徹夜で監視中。千代田区の悪代官ぶりを際立たせている。千代田区の再開発事業化最優先

は外神田や神田警察通りだけではなく。日本テレビHDが計画中の二番町のビル建設計画でも住民の「計画を見直して」の願いを聞き流しビル建設容認の手續き進行中。

再開発計画に対する異次元の協力が始まったのは石川雅巳前区長時代である。いわゆる石川区長が演じたマンション取得をめぐる100条委員会報告である。

〈東京ミッドタウン日比谷の開発（1）日比谷エリアマネジメントスキーム〉三井不動産の東京ミッドタウン日比谷開発に合わせて区域内の区道を廃止し、広場を整備した。日比谷エリアマネジメントへ無償貸与した。…首脳会議にも本案件は諮られていない。100条調査が行われるまでは区議会や区民に説明を行った事実は一切なかった

2020年9月18日の100条委員会にて証人喚問された石川区長は、

「区の所有する土地、建物を無償で貸し付けたことを知っているか」と問われ、さらに、無償貸し付けを議会に報告しなかった点は「わからない」とかわした。石川区長と共に証人喚問された坂田融朗都市計画課長（当時）は理由を「（本件を）付議しなかったのは会議を一つ飛ばしただけ」と居直った。

石川区長の下で日比谷再開発を手助けした元区幹部は、再開発後区役所を退職。立ち上げた個人会社「生活都市」で日比谷エリアマネジメントの業務を月額30万円で請け、生活都市は石川区長の知人の会社へ業務を丸投げしていると指摘された。また、同氏がかかわった秋葉原TMOには千代田区が出資。前副区長やまちづくり部幹部が役員として参加している。

再開発計画に苦しむ区民はこの光景をどう見ているのだろうか。

独立自らの日本をめざし、権力と闘つ言論誌。

平成27年4月15日創刊
第27巻第4号 通巻312号

月刊日本

GEKKAN
4
NIPPON

『安倍晋三回顧録』徹底批判

中島岳志・郷原信郎・村上誠一郎・平野貞夫・倉重篤郎・菅野完

マッカーサーの呪縛を解き放て! 西鋭夫

総務省の行政文書と放送法 磯崎陽輔氏との因縁 青木理

石橋湛山没後50年 政治家石橋湛山の思想と行動 増田弘

見識と威厳を持った指南役 森田実さんを悼む 二階俊博



月刊日本

『安倍晋三回顧録』徹底批判

中島岳志・郷原信郎・村上誠一郎
平野貞夫・倉重篤郎・菅野完

4

いつも、いつまでも、
安心な社会のために。

弊社は、効率化と省力化をコンセプトに、明日の社会に貢献する商品を開発。
“24時間365日の安心・安全”を実現する、最新のソリューションを提供しています。



株式会社ドッドウェルビー・エム・エス

<http://www.dodwellbms.co.jp/>

雑誌 13311-04
PRINTED IN JAPAN



491013311043
0070